

2004

12.01

Vol. 64



社団法人日本建築家協会
The Japan Institute of Architects

NAGANO <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/> -KEN CLUB

JIA 長野県クラブ

いろいろあって、これからもいろいろ

台風、地震と身近で災害が連続し、年の瀬を迎えていた。僅か3ヶ月前なのに今年の夏は暑かったっけ?ともう記憶は定かでない。人の記憶など如何にあてにならないかとあきれるばかりである。しかし、人間についての印象というのは結構長い間記憶に残っているものである。

今年は高校同窓会の幹事年ということで、夏から秋にかけておよそ70名の同期生と顔を合わせる機会に恵まれた。卒業以来初の顔合わせでも誰であるかはすぐにわかった。36年の歳月を経ても人の印象というのはそうは変わらないものだと感心した。脳裏に焼き付いたイメージは簡単には消せないものらしい。

そういうえばJIA長野県クラブも結構濃い人間関係で成り立っている組織である。70名はちょうどいい規模なのかもしれない。サロン的雰囲気は居心地がよい。しかし、排他的にならない努力が同時に求められている。

「JIA活動を広く社会に認知してもらおう」という目標をコンセプトに据えて広報委員会が活動を模索し始めている。



東京大会会場（国立オリンピック記念青少年総合センター）

副会長 赤羽吉人

今までの会員向けの広報に加えて、会の外側で私達の活動を理解し支持して頂ける人たちの輪を大きく広げていこうという取り組みである。私達を取り巻く人たちに働きかけてJIA親派になって頂くにはどのような情報提供が求められているか、メディアによる広告宣伝も含め、真剣に取り組んでいこうと考えている。

以下に、ここ暫くの当クラブの動きについて一言。

当クラブでは9月25日付けで先の低額入札問題についての意見表明を行い、ホームページに掲載した。その中で長野県では入札によらない設計者選定が第一歩を踏み出したところであり、より実務的な段階へ進めていく矢先のことですに残念なこととして困惑していることを強く訴えた。

当クラブ会員の登録建築家は現時点で登録済み10名、資格認定済み6名、計16名に達している。会員の2割では残念。未登録会員は是非次の認定時迄に申請してほしい。



新潟県中越地震の現場

特集「JIA建築家大会2004東京」



内藤審査委員長と学生達



赤羽 吉人

川勝氏の基調講演、鋭い切り口に思わずうなった。集中シンポジウム、3部構成のため其々が論点を絞りすぎて問題提起だけで終わってしまい消化不良。ガラス建築と照明、建築相談各セミナーはそれなりに有意義。人的交流は大して望めず。全体では統一テーマの採用が際立っていた。



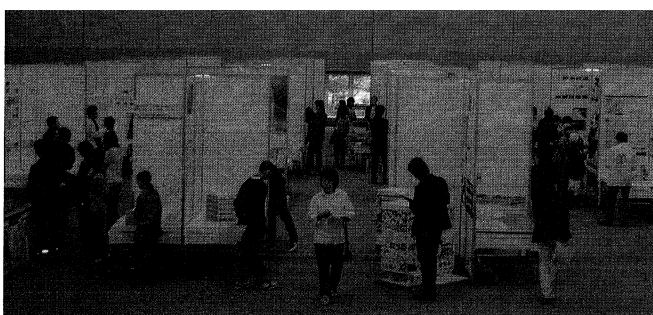
荻原 白

私は「全国学生卒業設計コンクール」公開審査会場に終日おり、審査員と作者の熱い闘いを体験してきました。今回各JIA支部・地域会から推薦された62作品が体育室アリーナに展示され、内藤審査委員長以下4名の審査員が休憩を挟んで6時間公開の場にて1次/2次/3次審査を実施。1次で14作品に絞り作者にプレゼンの機会を与え我々聴衆者もそのやり取りを真剣に聞き入りおりました。卒業設計はフィクションであって建築の概念を若者達がどうやって超えるかが、大切であって受賞作品もその辺りが反映されていた。我が地域会推薦の森君は惜しくも選外とはなったが、今後の社会における一層の活躍を期待しております。



菊池 弘之

大会中の15日の午後より16日の夕方まで1日半参加してきました。16日の午前中に、デザインフォーラム（近畿支部）があり、出江 寛さんが「建築は哲学なんやから、意味や裏付けみたいな物が無いといけない」、「無垢とは、その物が持つ重量感からの沈黙です！」う～ん、出江さんを見習うには、どこから入っても奥が深い。



「全国学生卒業設計コンクール」会場風景



岸本 貴志

交流サミットに参加してきました。

今回のテーマである「建築家との事前協働」について、佐藤総合計画藤山氏によるプレゼンの一部を紹介します。「純粋に技術ベースの戦いで選ばれ、ゼネコンと対等かそれ以上の立場で仕事が出来ること、それにより本来の意味での競争原理が働き、国際競争力をも高める結果になることを期待する。」



坂田 守夫

建築家と賛助会員の新しいコラボレーションを探るをテーマに開始されました。大会実行委員長の横河 健氏の挨拶のあと、各地域の代表者が正会員と賛助会員との活動報告をしました。私も長野地域会の現況を報告させていただきました。あとで高橋会長より「おとなしい発言だったね」と云われましたが、私の性格ゆえと思いました。ただ、長野県は他地域に比べて、非常に活動が活発だと、改めて認識しました。



賛助会交流サミット



高橋 重徳

4日間で延べ1千人弱の参加を得て、全般的には盛会であったと思う。企画されたWSはバラエティもあり、魅力的な内容でもあった。特に第三者監理問題、建築家資格制度WS、設計者選定方式の現在、交流サミット、全国地域会合同会議などは、JIAの目指すべき方向性を再考する良い機会となった。大会テーマである「美しい国づくり・美しい街づくり」のシンポジウムは会場に入りきれない程の盛況であったが、内容がバラけた感があり、残念であった。



西沢 利一

ヘビースモーカー同志で、言葉を交えた内藤（廣）さんの目に魅かれた。

街や景観をテーマに、5時間を越える集中シンポジウムも時間切れに終わったが、さまざまな意見の交差や放射が、日本を美しくしていくのだろうか？

少なくとも、いらだったあせりだけは沈殿していた。新宿の場末のカウンターバーで、安ウキスキーやビートルズの「ノルウェーの森」のメロディーが、今もどこからか聞こえてくる。

2004年10月13日(水)～17日(日)の4日間にわたり、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催されました。長野県クラブからも会員・賛助会員18名が参加、それぞれのワークショップに分かれ、熱い意見を述べる光景が見られました。今号は参加された方の感想を特集として掲載致します。

松下 重雄

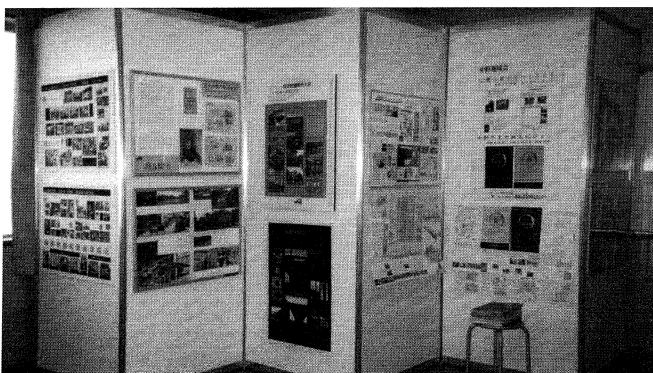


大会に先立ち、急遽「会員集会」として開かれた割には参加者が淋しかったが、「低価格入札問題」にはフロアーからの厳しい発言が続出し、時間切れでカットされる程、緊迫した。小倉会長が最後に「理事会の判断とこれほど乖離(かいり)する意見を聞きショックだ!」と率直な感想を述べられる程、各支部・地域会の受け止め方は厳しく、倫理規定に基づく厳正な対応を求めて理事会の決議や対応に批判が相次ぎ「ガス」は抜けなった。

丸山 幸弘



10/13と/14に参加しました。プログラム参加は13日「設計者選定方式の現在」に参加し、パネリストに早稲田大学教授：中川武先生、横須賀市：高田利男氏、群馬県安中土木事務所：新井久敏氏、伊那市役所：北原一樹氏を迎えて「設計入札は明らかに問題あると分かっているのに無くならない。」と中川先生より投げかけられ始まりました。良い公共建築物を作る為の行政の姿勢や設計者の立場、また、QBS方式のメリット、デメリット等々具体的に担当者から聞け非常に有意義であった。14日はJIA新人賞公開審査に参加しました。2日間の参加した印象ですが、いつものJIA大会の活気が感じられない大会でした。

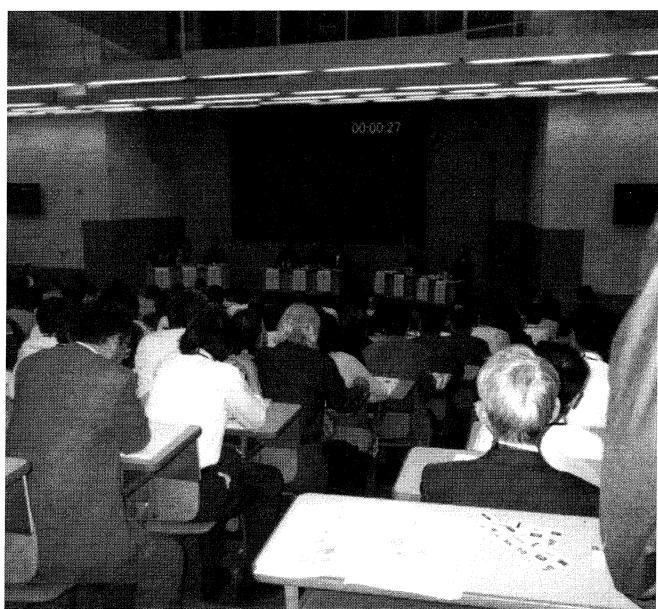


地域会活動報告

宮本 忠長



過密セッションに惑わされた。大懸かり過ぎたのではないか。基調講演の川勝平太先生の姿勢は印象的で良かった。美しい国づくりのテーマがボケている。これは、JIA総体の問題。空中戦では町づくりは出来ないので。日本列島を語る前に、地域・地元を何故語れないのだろうか。



美しい街づくりシンポジウム

山口 康憲



今回の大会テーマに沿った集中シンポジウムとパネルディスカッションは共に焦点が絞り切れておらず中途半端な内容で残念だった。JIAとしての方針を多少強引でも示す方がよかったのではないかと感じた。川勝平太氏による基調講演における広範な知識と深い洞察力によって導き出される結論は非常に説得力があり、閉塞感漂う現状に希望を見出せた貴重な価値のある講演であった。

JIA長野県クラブの皆様 「JIA建築家大会2004東京」を終えて

実行委員会副委員長 竹内 壽一

「JIA建築家大会2004東京」実行委員会で、伊平則夫さん(総務担当)、国広ジョージさん(広報・会場設営担当)とともに、副委員長を務めておりました竹内壽一(プログラム総括担当)でございます。

東京大会に多数の方々にお越しいただき、誠にありがとうございました。この大会もまずはまずの成功裏に終わったと思います。皆様のここ2年間のご支援が実って、初日から充実したイベントが大勢の方々のご出席を得て展開されました。過去最大の大会にしようと、JIA一丸となって尽力したことがようやく実ったと思います。

大会のねらいとして、ホスト役としての関東甲信越支部はじめ、他支部や地域会などのJIA内部のみならず、関連他団体、学生、一般市民、子ども、行政、政界など多くのJIAを取り巻く方々

のご参加を仰ぎ、私たちの普段の活動や職能の一端に触れていただきたいと希望しておりました。幸いにも、建築界以外の有識者や地元の国会議員の方々、東京都知事、渋谷区長、東京都教育委員会などのご臨席も実現しました。

JIA建築家大会実行委員会も、企画委員会時代をも含め、約2年間で40数回の(2週間に1度の)ハイペースで開催していました。これで私たちも軽井沢や鎌倉はじめ、多くの地域や支部で行われてきた過去の「大会実行委員会」OBの仲間に入れていただきたいと思います。大会にご参加いただき、また素晴らしい各企画をご担当下さった方々に、30余名の実行委員会を代表して心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

「第7回あすなろ建築展」開催

11月6日(土)・7日(日)飯田市鼎文化センター体育館、11月11日(木)・12日(金)上田信用金庫しんきん本店ギャラリーにて開催致しました。



<飯田会場> 新井 優

第7回JIAあすなろ建築展が飯田市鼎文化センターで11月6日(土)～7日(日)に開催されました。会場は飯田市主催の『生活と環境まつり2004』のメイン会場内のブースをお借りしての展示となり、延べ1200人(主催者発表)の一般の来場者の皆さんに私たちの作品を見て頂く機会となりました。「美しいまちづくりを目指して・・・あなたの家を・あなたの住む町を建築家といっしょに考えて行きましょう」をサブタイトルで募集をした今回のあすなろ展ですが、当初は作品登録が非常に少なく開催自体も危ぶまれましたがそこはいつものJIA。締め切り後にも関わらずあっという間に四十点近くのパネルが集結し、今度は展示会場の広さを心配する始末。しかし、飯田地区のJIAメンバーの手際に良さで一枚のパネルも犠牲にせず美しい飾り付けに成功し胸をなで下ろしました。飾るだけでそれぞれのパネル自体のデザイン性、写真的な美しさ、作品自体のレベル・・・自分の力も分かってしまう恐ろしい力をあすなろ展は持ち合わせています。また、明日へのエネルギーも頂ける良い勉強の場です。

会場内はバザーや屋台、環境関連のメーカーもブース出展している賑やかでごった煮のイベントですが、女性や子供も多く来場し、普段建築論を戦わせているJIAメンバーの作品が格調は高いが敷居が低くし、未来のユーザー予備軍の目につき止まる設定ができて飯田地区は大成功と勝手に思っています。



<上田会場> 安藤政英

11月11日、12日と上田市材木町にある上田信用金庫本店ギャラリーにて催されました。当日はウイークデイということもあり、入場者数は多い方ではありませんでしたが、上田市はまだまだ会員数も少なくどんな活動をやっているのか市民の中に浸透させていくにはこれからというところで、いい機会だと思いました。展示された作品には民家の再生からシンプルな木造住宅、大規模な公共建築物から町づくりに至るまでその巾の広さにはJIAのメンバーの力量を思い知らされました。なかでも上田での建築展ということで、松本の林隆さんが引き渡して1ヶ月も経っていない塩田の物件を載せているのには、その機動力に驚かされました。次回からは何かイベントと絡ませて、少しでも観客の動員が取れるよう工夫してやろうということが受付の仲間たちと話されました。



飯田会場スタッフ



上田会場展示風景

「愛と情熱の家づくり」 制作部会報告

会員委員長 片倉 隆幸

2004年7月26日に制作部会を設立、11月8日まで7回の部会を開催。終始、白熱した意見が出され、良い物を創ろうとの熱意が伝わってきました。11月末を期限に、参加者全員に原稿制作を依頼しました。校正作業を経て、来春の出版に向かってまいります。



制作部会の様子

会員情報(2004年11月現在)

正会員: 70名 現在3名の新会員申請中

賛助会員: 65社

※新潟県中越地震・被災住宅第三次判定のボランティア活動実施。

※12月18日(土) 松本薬師平箇宿にて「技術交流会」、「建築作品勉強会」

広報委員会より

委員長 林 隆

会員が手掛けた建物の竣工時に「見学会」を行なうケースがあると思います。

見せていただける場合は、FAXのクラブニュースにて会員・賛助会員へお知らせできればと考えました。急な日程でも結構ですので事務局までご連絡下さいますよう、よろしくお願ひ致します。会員同士が切磋琢磨できる場になればと思いますので、ぜひご協力をお願い致します。



『建築家大会2004東京』への参加、ご苦労様でした。

生き方も考え方もそれぞれ違う個性の固まりの様な会員が何かやろうと決めればひとつになれる。

それが当会の持ち味だと感心しました。新潟中越地震に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。..... 広報委員 吉川一久

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

編集人／林 隆 発行所／JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 作成／アッカグラフィックス/新建新聞社

発行人／高橋重徳

TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>